

## 第4章 首都圏のプロコンによる 支援事例



橘 真美子  
東京都中小企業診断士協会城東支部

初めて南伊豆町に降り立ったのは昨年8月のことだった。下田までは何度か訪れたことがあり、金目鯛や温泉を満喫していた。しかしながら、もう少し足を伸ばしたその先に南国好きがワクワクするような場所があるとは、「南伊豆応援隊」に参加するまでは知らなかった。

本章では首都圏のプロコンである私が行った南伊豆町の企業支援や、南伊豆町で長く取り組まれている6次産業化の事例とのかかわりについて紹介する。

### 1. 南伊豆応援隊参加のきっかけ

私は上京して10年以上がたつが、その前は沖縄の離島に10年ほど住んでいた。当時はリゾート開発の建設コンサル会社に所属しており、宮古島、小浜島、西表島などのリゾートホテルやゴルフ場の開発で、地域住民の方々や町村役場との渉外などに携わっていた。

中小企業診断士の資格取得を目指したのも、この頃に交流のあった地元の農漁業者らがリゾート開発の機会を生かすための支援ができたらとの思いが発端だった。当時から地域の活性化に携わりたいという気持ちが強くなり、それは心の奥底にずっと温めていた思いであった。

#### (1) 南伊豆応援隊第2期メンバー募集

それから10年余りが経過し、中小企業診断

士として活動を始めて2年が経過した2018年4月であった。中小企業基盤整備機構にて岩井氏の部署で仕事に従事していた折に、南伊豆応援隊の第2期メンバー募集に際し、地域の活性化に興味があった私に声をかけていただいた。

#### (2) 南伊豆応援隊内での活動領域

第2期のキックオフミーティングでは、南伊豆応援隊のリーダーである土屋氏から、どのカテゴリに参加してもよいし、新たに分科会を立ち上げてもよいとアドバイスをもらい、立ち上がったばかりの「産業振興計画基礎調査対応」の分科会に参加することになった。

南伊豆町が産業振興計画を策定するにあたっての基礎調査として、南伊豆町の事業者に現在の経営状況、今後の経営に対する考えや南伊豆町活性化とのかかわり方についてアンケートを実施しデータ化する、といった活動を行った。

### 2. ミラサポを活用した企業支援

分科会への参加開始と時期を同じくして、南伊豆町商工会の経営指導員である木下氏より、南伊豆町にあるクリーニング業の企業支援をお願いできないかと声をかけていただいた。この企業支援は「ミラサポ専門家派遣」を通じて行うことになった。

**(1) ミラサポ専門家派遣での企業支援開始**

「ミラサポ」における派遣要請のフローは、事業者が「よろず支援拠点」や「地域プラットフォーム」に経営相談を行い、必要に応じて最適な専門家を選定し、派遣の要請を行う、という流れである。

今回は地域プラットフォームの南伊豆商工会の木下氏が事業者から相談を受けて、ミラサポを通じて専門家派遣を要請いただいた。

その相談内容は、クリーニング店事業者が下田駅付近に新設したコインランドリーのWeb集客を強化したいというものであった。

独立前に培ったIT技術者としてのノウハウを生かし、海水浴シーズン本番を目前に競合他社から抜きん出るためのWeb戦略について提案を行った。

**(2) 支援で南伊豆町の6次産業に触れる**

木下氏からの次の依頼は、南伊豆町でメロンスイーツ専門店を経営する扇屋製菓であった。扇屋製菓は1927年創業の老舗菓子店であり、現在は4代目店主の渡辺淳也氏が和洋スイーツカフェを切り盛りしている。当カフェはメロンスイーツに力を入れており、食材のメロンは南伊豆町産を使っている。

**①温泉メロンの歴史**

南伊豆町でのメロン栽培は、大正8(1919)年に豊田しゅう吉が下賀茂字湯元に2,000坪の土地を購入し、10棟300坪の温室を建てたのが始まりといわれている。

大正14(1925)年頃からメロン栽培は本格的になった。各地から視察者や研究者が訪れ技術を習得し、後に磐田の静岡メロンをはじめ日本のメロン栽培の礎となった。大正末から昭和にかけては大正天皇、昭和天皇の御召用として度々メロンの拝命を受けた。昭和30年代後半には、下賀茂の温泉を利用した農家は14~15軒となり、メロン栽培の全盛期となった。

しかしながら、伊豆半島の最南端という土地柄から風水害が多く、打撃を受けた農家の多くは転業し、現在は1軒のみがマスクメロン栽培農家として残っている。



南伊豆町特産の温泉メロン

**②温泉メロンを活用したスイーツ開発**

このように歴史のある温泉メロンを使って昭和30(1955)年に扇屋製菓の2代目店主が開発したのが、メロン最中である。

当初は最中の皮は茶色であったが、3代目店主がメロン色の皮を開発し、よりメロンらしい商品となった。地元客や観光客に人気となり、南伊豆を舞台とした推理小説のキーモチーフとしても取り上げられるなど、長年親しまれる商品となっている。

さらに4代目店主は、代々受け継がれてきたメロン最中をより多くのお客様に親しんでもらうために、「パリパリメロン最中」を開発した。最中の皮とメロン餡を別々にするというアイデアで、食べる直前に自分でメロン餡を最中の皮に詰めることができるため、日持ちがしていつでも作りたてのメロン最中を楽しむことができるという商品だ。



パリパリメロン最中

また、カフェのオープンを機にメロンロール、メロンゼリー、メロンパフェなど、メロンを使った洋菓子のラインナップを増やし、メロン好きの顧客が遠方から来るなど話題の店となっている。

最近では、SNS 映えするデコレーション盛りのメロンパフェを開発し、その見栄えとおいしさの相乗効果から人気を博し、口コミ効果も高い。読者の皆様にもぜひとも現地でご賞味いただきたい。



4代目店主とメロンパフェ

### ③老舗菓子店のインターネット販売支援

ミラサポで依頼された当店の課題は、インターネットでの売上強化であった。自社の通信販売サイトは存在しているものの、顧客にとっての使い勝手が悪く、操作性の悪さや不具合が生じてもすぐに修正対応ができないといった問題が発生していた。

このため、通信販売サイトの作り変えに関する助言や、SNS などと連携した販売促進プランの提示などの支援を実施した。

渡辺氏はケーキの製造、販売の両方に対応していて、なかなか時間が取れないため、現在できるところから少しずつ実施しているようである。

### 3. 南伊豆町の個店支援で感じたこと

2018年度は個店支援3回、産業振興計画基礎調査対応2回、その他1回の合計6回、南伊豆に足を運んだ。その経験を通じて感じたことは、首都圏の企業と地方の企業の悩みは共通するところが多いということである。

そのため、首都圏プロコンによる支援の在り方、可能性については、十分に南伊豆町の企業の支援ができるのではないかと感じている。個人的に感じた利点を2つ挙げる。

#### ①6次産業化に触れることができる

私は福島県、千葉県の6次産業化専門家に登録し6次産業化を支援している。地方の取組みについて見聞を広げたいと考えていたため、静岡県での6次産業化に触れることができ、大変貴重な経験となった。

南伊豆町は魅力的な食材が多く、これから6次産業化に着手したい事業者も存在するため、6次産業化支援の需要も増えていくと考えている。

#### ②首都圏での支援経験を生かした活動

今回の支援先企業は、Web 集客強化がテーマであり、得意分野を生かした支援ができた。提案内容は基本的に地方だから特別ということはない。支援先企業の状況に合った提案をするという点では首都圏での支援経験を十分に生かした貢献が可能だ。南伊豆の地域特性は企業の大きな強みであり、それらを生かした提案を心がけたい。

### 橘 真美子

(たちばな まみこ)

北海道恵庭市出身。札幌にて大手商社OL経験後に沖縄に移住し、リゾート開発などに携わる。その後、IT技術者に転身し東京に移住。現在は独立し、6次産業化専門家としての農業経営者支援や、区役所の経営相談員、Web集客改善支援、事業計画策定支援などで活動中。2016年中小企業診断士登録。

